

◎大阪・関西万博のレガシーを未来へ——

学生会館「誠之館群」の建替計画を推進



関西大学は、課外活動拠点として長年親しまれてきた千里山キャンパスの学生会館「誠之館群」の建替計画を推進する。新施設は鉄骨造・地上11階建て、延床面積約2万2,000㎡。大阪・関西万博のシンボル「大屋根リング」の木材を再利用したエントランス空間を整備する。万博のレガシーである理念や記憶、環境負荷低減(SDGs)を学生の学びや交流へと継承し、2027年4月の着工、2029年3月の完成を目指す。

また、8月29・30日には、解体工事を控えた建物を特別に一般公開する「誠之館OPENDAY」を開催。現役学生や卒業生、地域・関係者ら多くの思い出を持つ人々が訪れ、誠之館との最後の別れを惜しんだ。



▲2号館の共有スペースに設けた「寄せ書き(メッセージ)ウォール」にはさまざまな思いが書き込まれた

学生会館「誠之館群」建替計画の概要

●課外活動の新拠点として学生会館を再整備

誠之館は文化会・学術研究会・体育会などの活動拠点。誠之館2号館～8号館のうち、2・3・5号館は建設から半世紀以上が経過し、老朽化や活動スペース不足が課題となっていた。このたびの建て替えにより、学生の自主性や社会性を育む教育環境を拡充する。

●多様な出会いと価値創造を生み出す「キャンパス・コア」

新施設のコンセプトは「アクティブ・グリーンヒル・キャンパス」。象徴的なエントランスをはじめ、全学生・教職員が利用できるトレーニングジム、共通講義空間、音楽・スポーツなどの活動機能、部室等を備えた交流拠点を目指す。

●大阪・関西万博の理念と記憶を未来へ継承

大阪・関西万博のシンボル「大屋根リング」の一部をエントランスに再利用。リング解体後も、万博の「多様でありながら、ひとつ」の理念や記憶を次世代へ継承するとともに、資源循環や環境負荷低減に寄与するサステナブルエコノミーの実践を目指す。また、国産材の活用や地域活性化にも貢献し、SDGs推進を象徴する施設とする。



アクティブ・グリーンヒル・キャンパスの実現に向けて

01 「キャンパス・コア・コンプレックス」の形成

多様な社会的価値の創出

- ・様々な活動風景が混ざり合う、賑わいと活動の中心を創出する
- ・オープンな課外活動機能を再編し、キャンパスの中央に据える

02 多様な「知」が集積する「共通講義機能」

さまざまな「学びの交感」

- ・多学部が利用できる講義スペースで、多様な学びに触れる場とする
- ・各学舎等の建て替え時に、仮移転先(タネ地)としても活用する

03 キャンパスの回遊性を高める「森のパサージュ」

文化的創造力の涵養

- ・悠久の庭から法文エリアをつなぎ、丘陵の緑・万博木材、活動と学びの風景に歩きながら触れるパサージュを設ける
- ・回遊性向上と賑わい創出で、キャンパス全体の価値を高める

04 「歴史的な丘陵と緑地」と「活動の風景」が表出する施設

キャンパス景観の継承

- ・地形に沿い、緑と学生活動が立体的に展開する風景を創出する
- ・設立前からの丘陵と豊かな緑地、育まれてきた活動風景を生かす

05 「レガシーの継承」と「環境に寄り添う建築」

SDGs推進の表現

- ・万博の大屋根リングの一部再現により、「多様でありながらひとつ」を継承する
- ・木材活用や建材アップサイクルによるSDGs推進を表現する
- ・ユニバーサルデザインや省エネ配慮など、SDGs達成に向けた整備を徹底する



◎「Discover KANSAI! 関関同立で拓く、関西の学び×文化×暮らし」

4大学の学長が語る「関西で学ぶ価値と、その先のキャリア」



(左から) 関西大学 高橋智幸学長、関西学院大学 森康俊学長、同志社大学 小原克博学長、立命館大学 仲谷善雄学長

8月26日、関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学の4大学の学長が一堂に会し、関西で学ぶ魅力について語り合うイベント「Discover KANSAI! 関関同立で拓く、関西の学び×文化×暮らし」が名古屋市内で開催された。

高等教育における東京一極集中が背景にある中、文教地区としての関西の魅力を広く発信することを目的に企画された本イベント。第1部の学長座談会では、リクルート進学総研所長の小林浩氏をモデレーターに迎え、「関西で学ぶ価値と、その先のキャリア」をテーマに議論が交わされた。

登壇した4大学の学長は、自大学の特色や関西で学ぶ意義を紹介。「ここよい距離感」「ひとり一人が違って当たり前という文化」「やってみよう精神」の3点を挙げ、学びやすさや暮らしやすさを説明した。また、他大学の学長からも「大阪・京都・神戸という個性豊かな3都市の近接性」「人を楽しませようとする文化」「大学と地域の盛んな連携」「豊かな感性を育む歴史や文化」など、多角的な魅力が紹介され、活発な意見交換が行われた。

続く第2部では、本学卒業生アンバサダーのお笑いコンビ・南海キャンディーズの山里亮太さん(2001年文学部卒業)によるトークショーを実施。山里さんは、自身が千葉県から関西へ進学した体験談を交えて学生生活を語った。更に、4大学の東海圏出身学生による座談会では司会も務め、アルバイトや課外活動、地域交流を通じて感じた関西の魅力を紹介し、会場を大いに盛り上げた。

当日は、愛知県や近隣地域の高校生、保護者ら約200人が来場。熱心に耳を傾け、終了後の個別座談会でも積極的に質問する参加者の姿が見られた。



▲山里亮太さん

◎全日本大学野球選手権記念大会で54年ぶりの3回目V!

野球部の全国制覇を記念し、凱旋パレードを開催



2026年6月、神宮野球場等で行われた第75回全日本大学野球選手権記念大会において、体育会野球部が54年ぶり3回目の優勝を果たした。これを記念し、7月9日に千里山キャンパス周辺で優勝パレードおよび優勝報告会が開催され、駆け付けた学生や教職員、地域住民など約3,000人が歴史的快挙を祝った。

パレードは関大前商店街からスタート。選手たちは応援団による学歌や応援歌の演奏に合わせて行進し、沿道に集まった観衆からの温かい拍手や「優勝おめでとう!」の声援に笑顔で応えた。

総合図書館前ではフラワーシャワーも行われたほか、吹田市のイメージキャラクター「すいたん」も参加。地域の方々と喜びを分かち合う、華やかなひと時となった。

また、悠久の庭で開催された優勝報告会には、200人を超える野球部員が参加。多くの観客が見守る中、学長および理事長による祝辞や花束贈呈が行われ、野球部を代表して森内大奈主将(総合情報学部4年次生)が優勝の報告と感謝の言葉を力強く述べた。

